



ホームページと SNS でまちの話題を配信中！

6/4

小学生を中心に保護者や園児ら63人が汗流す

カメラ 特レポ

市と市スポーツ推進委員が「ふれ愛スポレク祭 in FURUKAWA～軽スポーツ大会」(ひだチャレンジクラブ協賛)を開催しました。これは軽スポーツの普及や市民とスポーツ推進委員の交流を目的に、20年以上にわたって行われている歴史のあるイベントです。

実施したのは、市民の間で人気のカローリングとペタンク、シャフルボードの3種目で、小学生を中心に保護者や園児ら63人が参加。参加者は、それぞれお気に入りの競技1種目を選び、1チーム2～3人で得点を競い合っていました。

大会は約2時間にわたって行われ、皆、真剣な表情で取り組んでいました。表彰式では上位に入った子どもたちは賞品を手に大喜び。残念ながら上位に入れなかった子どもたちも「悔しいけど楽しかった」と皆さわやかな笑顔を見せていました。



6/5

「30年後の広葉樹の森を夢見て」テーマに植樹祭 ヤマザクラやヤマボウシなど約290本を植樹

カメラ 特レポ

古川町黒内の果樹園跡地で「30年後の広葉樹の森を夢見て」をテーマに植樹祭が開かれました。昨年に続き今年は約1.5ヘクタールにわたってヤマザクラやヤマボウシ、アオダモなど8種類合わせて約290本が植えられました。

地元の親子連れを中心に地域おこし協力隊や森林組合職員など約100人が参加。黒内区山林整備委員会の面谷均委員長は「山林は常に若返りを図る必要があり、手を入れないと荒廃してしまいます」などとあいさつ。参加者は2時間ほど作業に汗を流し、飛騨猟友会古川支部の皆さんと地元の主婦らが調理したシシ鍋が振る舞われ、舌鼓を打っていました。

参加した黒内出身の面谷駿介さんは家族や友人らと訪れ、「今年長女が生まれたので記念植樹を兼ねて参加しました。子どもたちもこの苗木のようにスクスク元気に育ってほしいです」と話していました。



6/8

鉾山資料館リニューアルコンセプト検討会議 鉾山資料館リニューアルに向けた提言書を提出

神岡鉾山の歴史や産業遺産などを紹介している展示施設「鉾山資料館」のリニューアルに向けて発足した「鉾山資料館リニューアルコンセプト検討会議」がまとめた提言書を、座長の富山大学都市デザイン学部の安江健一准教授、委員の市観光協会神岡支部の藤田栄支部長が、都竹市長へ手渡しました。

提言書では、展示が古くなっていることや建物の老朽化が進んでいること、鉾山と神岡町との関わりや歩みを知ることができないこと、バリアフリー化がなされていないことなどを指摘。「鉾山のまち神岡の歴史と文化を後世に繋ぐ」をメインコンセプトに、具体的な提案を盛り込みました。

都竹市長は「神岡の子どもたちが『鉾山』という言葉の口にしなくなったことを危惧している。ここでなんとか成し遂げて後世へ残したい」などと述べました。



6/12 市 観光プロモーション大使の永田薫さんも体験 市民農園で薬草の苗の移植作業

飛騨市の地域資源「薬草」を普及するため、古川町上町の市民農園で苗の移植作業が行われました。

昨年に引き続き市薬草ビレッジ構想推進プロジェクトのメンバーを中心に取り組んでいますが、今回はメンバーら13人のほか、市観光プロモーション大使・永田薫さんも加わり、クワやスコップを手に汗を流しました。

今回はメナモミ約50株を始め、カキドオシやイノコヅチ、オオバコ、ウイキョウ、トウキなどを移植。薬草に詳しい白川靖之さんの指導の下、畝づくり、マルチと防草シート張りなどを皆で手分けして行いました。

永田さんは「薬草栽培は初めて体験しました。実際に皆さんとふれあう中で、こうした特産品が生まれることを知り、素晴らしいと思いました。私もSNSなどを通して薬草の魅力発信に協力したいと思います」と話していました。



6/12 停電や断水、急病などに日ごろから備えを 古川町袈裟丸地区で「防災講演会」を開催

古川町袈裟丸区の「防災講演会」が開かれ、区役員や団体関係者ら約70人が参加しました。

第1部では古川土木事務所河川砂防課職員が水害と宮川下流部の河川事業について解説。第2部では岐阜大学地域減災研究センター特任准教授・村岡治道さんが「災害時の避難リミット 逃げるが勝ち～みんなが助かるために～」と題して講演しました。全国各地で発生した災害と被災者がとった行動を映像で振り返り、「日ごろから停電、断水、食料品の備蓄、急病に備えることが大切。生活必需品は2階に保管することをお勧めします」などと話していました。

参加した消防団員の石田達也さんは「災害の危険性がある時は現地に最後まで残り、住民を守ることにばかり考えていましたが、様々な事例を紹介していただき大変参考になりました」と話していました。



6/18 県内外から17人が参加して技術を学ぶ 宮川町種蔵地区で空石積みワークショップ

宮川町種蔵地区の石積みは自然石を積み上げて作る空石積み工法が用いられています。

空石積み(からいしづみ)とは、田んぼや畑に転がっている野面石(のずらいし)を使って石積みを行う昔ながらの伝統工法で、この日は岐阜県唯一の石工講師の今井了恵さんから石積み工法を習いながら石積みが行われました。

ワークショップには、県内外から17人が参加し、2日間にわたって種蔵地内の石積み体験。崩れている石積み箇所を一度崩し、石の形や大きさを見ながら、向きや角度を変えて積み上げていきました。

終了後には、空石積みワークショップに参加して石積み技術を多く学ばれた方を「飛騨市種蔵棚田空石積みワークショップ指導員」として認定する「空積み技術認定証」が今井先生より手渡されました。





飛騨市役所



ホームページと SNS でまちの話題を配信中！

6/19

河合小児童が商品開発と販売を学ぶ

食べられるバラと飛騨の森をテーマにしたイベント「バラモリ2022」が河合町角川の香愛ローズガーデンで開かれました。会場は、河合産の農産物などが並んだ河合百貨店、河合野草茶などが販売されました。また、河合小学校の3年生から6年生までの児童有志15人も「河合っ子マルシェ」として出店し、地元の魅力をPRしました。児童らが作ったクロモジの木を利用した人形やボードゲーム、地元の畜産農家が育てた「飛米牛」の肉を使ったコロツケを販売。慣れない接客に悪戦苦闘しながらも、大きな声で呼び込みをしたり、レジで代金を受け取るなど活動に汗を流していました。



参加した4年生の政井伶太さんは「5個以上は別の袋に分けて入れるルールだったので、作業に時間がかかって大変でした。商品の袋への入れ方や、お客さんへの渡し方が分かりました。来年もまたやってみたい」と話していました。

6/21

カラフルなバラに囲まれながら親子で楽しいひと時

河合宮川子育て支援センターが河合町角川の香愛ローズガーデンで、親子で参加できる催し「香愛ローズガーデンに集合！」を開催しました。

市内の未就園児の親子が対象で、同園内を散策しながら地元の魅力を味わって楽しんでもらおうと毎年行っているもの。市内の親子連れ13組が参加し、赤や黄色など色とりどりのバラが咲いている園内をそれぞれのペースで巡り、花びらをさわったり匂いをかいだりしながら散策。カラフルな風車のプレゼントや宝探しもあり、楽しい時間を過ごしました。



息子の咲哉ちゃんと参加した、古川町の道田明日香さんは「毎年バラを見に来っていますが、今年もきれいに咲いていました。いろんなバラを見る機会はあまりないので良かったです。バラを見た子どもの反応の違いを見るのも楽しい」と話していました。

6/23

旬の素材を用いた「梅ジュース」を親子で仕込みました

神岡子育て支援センターが、神岡町東町の神岡町公民館で、未就園児の親子を対象にした親子クッキング「おやこで梅ジュースづくり」を開催しました。

栄養士の藤田智子さんがミニ講話を行い、梅の栄養素や効用について説明。その後、参加者は用意されたガラス瓶に、500グラムずつの梅と氷砂糖をそれぞれ交互に詰めて梅ジュースを仕込みました。参加した子どもも作業を行い、ふたを締めて完成させると満足げな表情でした。この日仕込んだ梅ジュースは1週間から10日ほどで完成する予定。



息子の和樹君と参加した神岡町の吉田和佳子さんは「子どもも楽しんでいて、いい経験になりました。初めてだったので、最初は難しいかと思いましたが、案外簡単にできました。家でも、子どもと一緒にエプロンを着てやってみたいです」と目を細めていました。